滝川高校ＳＳＨ通信

発行：2019 年 7 月 22 日　　SSH・理数科　第１４号

各種実験教室へ参加してきました！

7/12（金）　滝川わんぱく合宿　カグヤコウモリ観察・説明会
7/14（日）　紋別わくわく科学教室・オホーツク自然観察合宿
7/21（日）　みんくるWa 夏祭り 各種実験ブース＆実験ショー
7/27（土）　滝川市美術自然史館「月イチ理科室」

本校科学部と有志の生徒を募って（サイエンス・アクションチームとして）、地元の自然を子どもたちに知ってもらうイベントや、様々な実験教室に参加してきました。

まずは、**滝川わんぱく合宿**。東滝川のある農機具庫を出産・哺育ねぐらとして利用するカグヤコウモリ（*Myotis frater kaguyae*）の集団（約３００～４００頭）を、児童２３名たちと観察してきました。宿泊場所に戻ってから、そのコウモリたちの生態を解説しました。

その週末には、紋別へ。**実験教室と自然観察合宿**に参加。参加者は約千名を超え、北海道に生息するキツツキの科学工作を、児童たちに紹介。翌日にはコムケ湖にて、オホーツクの自然（湿原の植物ワタスゲや、オジロワシ・オオワシなどの野鳥）を観察してきました。

次の週末には、地元滝川**「みんくる Wa 夏祭り」にて実験ショー**を実施。混合気体の爆発実験や、偏光板を用いたブラックウォールの製作、真空を利用してボーリングの玉を浮上させる実験など、いろいろな実験を子どもたちに見てもらい、科学の面白さを紹介しました。

今年の１２月には本校体育館にて、サイエンスデーを実施予定です。その準備も含め、色々な経験を積んだ７月となりました。

倉庫で捕獲したコウモリを観察

滝高科学部員（１年生）たちによるカグヤコウモリ解説の様子

紋別の科学実験教室は、約千名を超える参加者で大賑わいでした。

滝川みんくるでの実験ショーの様子

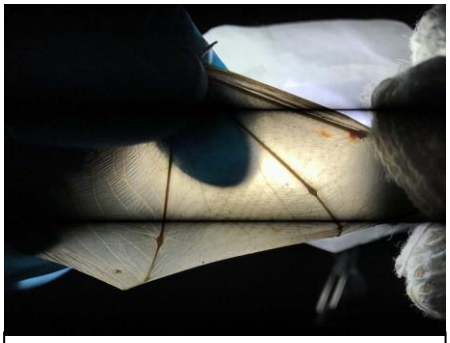
流氷科学センターで高橋館長と極地域の環境について講話

北海道に生息するキツツキは、全部で６種類（チャバラアカゲラは？）

ＳＳＨの主な活動は随時滝川高校ホームページに掲載いたします。

〔追加〕

捕獲したカグヤコウモリ

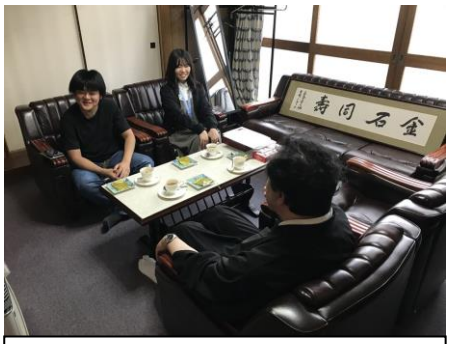


手膜の関節や血管を観察し
種を同定する。

１泊目は紋別市生涯学習センター
にて勉強合宿も実施

隕石の無料叩き配布に大勢の人が

白滝産の黒曜石は、赤い縞模様が
特徴（パーライトも混入）



紋別大谷学園の橘理事長より
アンモナイトと岩石の講話

三室番屋の中。薪ストーブなどが
あり観光客用に改築されている。

三億五千年前のアンモナイト
国立科学博物館に寄贈する予定

マダガスカル産アンモナイト
真珠層が保存され光沢を放つ

２泊目はコムケ湖畔の三室番屋
以前は定置網の漁師が利用していた。
湖では現在１軒だけ、ホッカイシマエビなどの漁がおこなわれている。

帰りは現在人口ゼロの街 鴻之舞
上藻別駅逓に立ち寄りました。
※かつては、「東洋一の金山」と呼ばれ約
１万数千人の人たちの営みがあった場所

滝川市美術自然史館 月イチ理科室
みんくる実験教室のつながりから、
今後も科学部と有志が定期的に参加
することになる予定

7/14(日)実は実験教室の同日に札幌にて、化学グランプリ予選が実施されており、滝高からも科学部と希望生徒１０名が参加していました（札幌駅前、教育大サテライトで一次選考が実施）。

試験は午後からだったので、午前中は北大理学部の総合博物館を見学。正門から中央ローンを通りクラーク像へ。この博物館は北大の文系から理系まで、すべての学部の研究が紹介されており、充実した展示を自由にたっぷり見学してきました。

肝心の試験のできはどうだったのでしょうか、

江戸時代に出版された「雲根志」の初版版を見せていただいた。
※鏡石（チャート）のくだりが、明治に再版された本では割愛されているとのこと。

・縫合線がはっきりと観察できるように研磨されたアンモナイト
・八十士で採取された砂金
・深川雨竜川で採取された砂白金
化石や岩石についてのお話を伺った

滝川みんくるでの実験ブースの様子
錯視・ブラックウォール・回転浮沈子
ドローン・ラジコン・キツツキ工作
など、様々なブースを出展した。